

令和 5 年 度

事 業 報 告

社会福祉法人

恵 愛 会

目 次

1	法人活動（総論）	・ ・ ・	1
2	経営戦略の実行状況について	・ ・ ・	2
3	筑波地域包括支援センターの実績	・ ・ ・	5
4	課別の施策	・ ・ ・	6
5	行事实績	・ ・ ・	8
6	職員研修実績	・ ・ ・	9
7	主要データ	・ ・ ・	10

令和 5 年度 事業報告

1 法人活動（総論）

令和 5 年度年度間総括

本会では、基本方針に「ご利用者本位のケアについて原点を見直し、人権意識を徹底させる」という目標を掲げ活動してきたところ、虐待事案ゼロという結果が得られた。

法人の体制に関しては、平成 8 年から 27 年間にわたり本会の発展のため尽力されてきた宮本勲理事長が、令和 6 年 2 月 9 日に病気のため逝去され、令和 6 年 2 月 16 日の臨時理事会において宮本浩理事が新理事長に選任された。

衛生管理の面では、令和 4 年度と同様に時折新型コロナウイルスの感染がみられ、特養では 2 回クラスターが発生し、令和 5 年 8 月に、職員 1 名とご利用者 4 名が、令和 6 年 2 月にご利用者 9 名と職員 5 名が感染した。

財務面では、デイサービスについて、地域全体の需要の落ち込みにより利用者が減少し、昨年度に比べて大幅な減収となった。（後記詳述）

特養では、ほぼ昨年度の稼働率を維持できたため安定した収益を確保できた。一方、昨年度高騰した電気料金も政府の激変緩和措置等によりかなり安くなり、さらに昨年度に引き続き県及びつくば市からの物価高騰対策支援金（県：3,480 千円、つくば市：1,400 千円）があり、また、離職者が多かったため人件費が昨年度を下回ったことなどにより、経常増減差額は、25,730 千円の黒字となった。人件費は昨年度を下回ったにもかかわらず、人件費比率は 71.8 % となり、昨年度の 70.5 % から上昇しているが、これは県からの補助金収入（コロナ感染時施設内療養補助金）が約 9,000 千円減少したことによるものである。（以上地域包括支援センターを除く）

人事・労務面では、令和 5 年度は介護職、看護職、調理職で近年にないほどの数の退職者（令和 4 年度 6 名に対し 13 名）があったため、人材の確保が喫緊の課題となり、多額の人材紹介手数料（9,775 千円）が発生し、損益を押し下げる要因となった。

施設・設備面では、一部の機器について財務状況をふまえて整備台数を減らしたものの、ほぼ計画どおり進めることができたのであるが、最終的な損益を考慮すると、機器の増強を計画以上に推進することが出来たと考えられ、よりきめ細かな財務管理の必要性を痛感したところである。ここ 2 年間行ってきた大規模修繕に備えての積立は、今回は見送ることになった。

サービスの質の面に関し、職員の資質向上に不可欠な職員研修については、ほぼ計

画どおり実施することができ、外部研修にも積極的に参加した。令和4年度に発生した虐待に該当する事案はなく、人権擁護の研修の成果と考える。

業務継続に向けた取組については、業務継続計画（自然災害）に基づく訓練を初めて実施することができた。

2 経営戦略の実行状況について（各論）

① 財務計画に関する実績

- ・特養（ショート含む）の稼働率は、本館が97.5%と昨年度の96.8%を上回り、別館が93.9%と、昨年度の94.7%を若干下回ったが、特養全体としては、95.7%と目標の96%をやや下回る結果になった。

- ・デイサービスについては、年度間平均稼働率は、昨年度の80.0%から66.4%へと大幅に低下した。特に令和5年9月頃から利用者の減少傾向が続き、令和6年3月の稼働率は54.8%にまで落ち込んだ。1か月あたりの平均利用人数は、昨年度の516人から427人に減少した。このため、昨年度に比べて13,583千円の減収となり、収益の確保に向け抜本的な改革に向けた検討（運営形態の変更等）を開始した。

- ・計画された施設・設備整備（デイサービスのトイレの改修等）を、ほぼ計画どおり実施した。この結果、利用者から好評を得ている。

- ・資金収支差額は7,716千円となり、昨年度に比べ14,916千円の減となった。損益計算書の経常増減差額は、25,730千円となり、昨年度に比べ9,029千円の減となった。

稼働率等の経年状況

		R3	R4	R5
稼働率	従来・ユニット	96.5%	95.8%	95.7%
	デイサービス	72.2%	80.0%	66.4%
介護保険事業収益		669,838千円	704,758千円	681,101千円
経常増減差額		6,250千円	34,759千円	25,730千円
資金収支差額		3,214千円	22,632千円	7,716千円
人件費比率		74.8%	70.5%	71.8%
(茨城県指数)		(67.0%)	(66.8%)	(—)

※包括支援センター分は除く

② 人事・労務計画に関する実績

年度中途での退職が多数発生したため、人材紹介会社も活用して人材の確保に努めた。（人材紹介利用：介護４名、看護２名、調理２名、機能訓練１名）

- ・採用１６名（介護職７、看護職２、調理職３、事務職３、機能訓練士１）
- ・退職１３名

介護職５名：勤続年数 １４年、１２年、６年、２年、２ヶ月各１名

看護職２名：勤続年数 １７年、３年

調理職２名：定年１名、勤続年数２１年１名

機能訓練士１名：勤続年数６年

事務職２名：勤続年数 ６年、７ヶ月

保健師１名：定年

退職	介護	看護	調理	機能訓練	事務	保健師	計
１年未満	１				１		２
３年未満	１						１
３～１０年	１	１		１	１		４
１０年以上	２	１	２			１	６
計	５	２	２	１	２	１	１３
退職理由	人間関係	健康	転職	家庭	定年	その他	計
人数	５	２	１	２	２	１	１３

採用	介護	看護	調理	機能訓練	事務	保健師	計
	７	２	３	１	３	０	１６

- ・適材適所配置のための定期人事異動を行った。
- ・国の介護職員処遇改善支援補助金を財源に、介護職に対する毎月決まって支払われる手当を創設した。
- ・職員の研修について、内部研修に関しては、ほとんどが資料配布という形が継続しているが、概ね計画どおり実施できた。また、外部研修についてはリモート形式が定着したため、多くの職員が参加することができた。
- ・有給休暇の取得率は全体で６６．２％（昨年度６１．２％）となり、昨年度を上回ったが、恵愛会行動計画に掲げる目標の７０％に達しなかった。また、男性職員３名が育児休業を取得した。

③ 設備整備計画に関する実績

- ・計画された施設・設備（電動ベッド、デイサービスのトイレの改修、電気設備の更新、別館 WiFi の構築、入浴支援装置）の整備を実施した。ただ電動ベッドについては、計画の半分の 5 台の整備にとどまり、目標の 68 台に対して令和 5 年度末で 34 台となっている。

④ サービス計画に関する実績

- ・介護課全体の勉強会を開催し、尊厳・介護における職業倫理・権利擁護・自分自身のストレスケアなどの基礎知識を再確認するとともに、自分自身の行動計画を作成した。これにより虐待事案並びに不適切介護事案ゼロが実現できたと考えられる。
- ・健康管理面では、日頃から、ご利用者の健康状態の把握を嘱託医と密に連携をとって行い、早期対応、スムーズな受診につなげることができた。
- ・食事栄養面では、栄養ケアマネジメントを基本的サービスとしてご利用者全員に実施し、生活の質（QOL Quality Of Life）の向上に寄与した。
- ・科学的介護情報システム（L I F E）の本格運用により、利用者個々の状況に応じた個別ケアの実施を支援する、国からのフィードバック内容をケアの向上に役立てることができた。
- ・各種委員会活動は、リモートの形式により活発に行われた。

⑤ 感染症や災害への対応力強化に関する実績

- ・令和 6 年 5 月に新型コロナウイルスが 5 類に移行したことを受けて、一部感染対策の緩和を行った。（同居家族感染時の出勤可、施設内のパーティション撤去職員休憩場所の再開 等）ただし、家族の面会については、依然として外部からの持ち込みと思われる感染がみられるため、予約制、人数制限、居室以外での面会を継続している。
- ・感染症の発生及びまん延等の防止に関する研修を実施した。
- ・業務継続計画（自然災害時）に基づき、停電時における電源確保、通信連絡、給食提供などの訓練を実施した。
- ・業務継続計画（新型コロナウイルス発生時）に基づく訓練は次年度に先送りとなった。

⑥ 地域交流に関する実績

- ・地域ケアマネ会議に参加し、地域のケアマネージャーとのネットワークの構築に努めた。
- ・筑波地域包括支援センターとウエルシア北条店共催により 3 回にわたり「健康教

室」を開催し、デイサービスセンターとケアサポートセンターも参加して予防、栄養の話や体操、脳トレなどで、地域住民の方に楽しい時間を過ごしていただいた。これにより、筑波園の存在と業務内容の周知に役立てる事が出来た。

⑦ その他当初計画に掲げられていなかった実績

・国土交通省に別館空調設備更新、特養全館照明設備LED化、本館別館給湯設備更新、建物躯体の省エネ化を内容とする補助金を申請したところ、令和6年1月に採択された。令和6年4月に着工が決定しており、これにより懸案だった重要設備の更新が完了し、電気料の削減も見込めることとなった。

＊補助事業名：既存建築物省エネ化推進事業

＊総事業費：123,101,000 円（うち補助金 36,802,000 円）

3 筑波地域包括支援センターの実績

・令和5年4月～令和6年3月までの相談件数は、延べ929件であった。

<相談区分別延べ件数>

介護・日常生活に関する相談	888
サービスの利用に関する相談	205
医療に関する相談	142
所得・家庭生活に関する相談	79
権利擁護に関する相談	60
苦情相談	8
安否確認	7
行方不明	2
合計	1,391

※相談1件あたり、複数の相談内容がある場合があるため、合計が929件と一致しない。

4 課別の施策

① 生活相談課

「総合的なマネジメント能力の向上」を目標に、その具体策を「インテークから終結までの情報共有、振り返る機会を持つ」として取り組んできた。

計画どおり、2ヶ月に1回スーパービジョンを実施し、ご利用者の状況把握を行い、調整がスムーズに行えた。看取り介護の手順について統一ができた。急変時の対応について意見交換ができたなどの成果を上げることができた。

② 介護課

「利用者が毎日尊厳のある生活ができるようなかわりをする」を目標に、その具体策を「目指していく介護を決め継続していく」、「尊厳、権利擁護等について理解するための勉強会を開催する」及び「決められたこと、ルールを遵守する」として取り組んできた。

フロア毎に目指していく介護という目標を立てることができたが、実行できているかどうかについての確認は不十分であった。

勉強会については年4回の計画であったが、1回の開催となってしまった。フロア毎に分かれて実施し、グループワークでは、対応に困っているケースなどを出し合い、積極的に意見交換が行われ、日頃のケアや対応で改善が必要な点について考える良い機会となった。

フロア会議の開催回数には、ばらつきがあったが、計画どおり、決められたこと、ルールの確認を行った。

③ 看護課

「業務改善により利用者に関わる時間を増やす」を目標に、その具体策を「業務の無理、無駄、ムラを無くす」と「職員間の情報交流を密にする」として取り組んできた。

計画では、必要な業務、不必要な業務を分類し、業務マニュアルを整備するということであったが、業務多忙のため実施できなかった。また、当初2ヶ月に1回のペースで看護課会議を行う計画であったが、3回の開催にとどまった。

④ 栄養課

「全員のモチベーションが上がり、やりがいを持って仕事ができるよう環境を整える」を目標に、その具体策を「意見交換の時間を増やし、不満や意見をためないようようにする」と「業務内容の平準化を図る」として取り組んできた。

当初2ヶ月に1回（年6回）栄養課会議を開催する計画に対して、実際は年4回の開催となったが、衛生面の改善案、在庫管理の仕方、勤務体制や業務分担などについて多くの意見が出て実行に移すことができた。その結果、早番業務のマニュアルも作成

することができ、業務内容の平準化も図られた。

⑤ デイサービスセンター

「ご利用者から選ばれる事業所を目指す」を目標に、その具体策を「在宅サービスの役割を考える」、「ご利用者が必要とするサービスは何かを考え、実践し評価する」及び「サービス内容の発信」として取組んできた。

在宅サービスの役割については、居宅のケアマネにも参加していただき、意見交換を実施した結果、ADLや認知機能の低下する中、不安な思いで過ごす方々を支える役割を持っていることを改めて認識した。その不安を和らげる為に、リハビリ、レクへの参加 食事での楽しみなど、コミュニケーションをとって意欲的に取り組めるサービス提供を考える必要があるとの結論になった。

ご利用者から温かい食事についての声が多く聞かれるため、検討を行った結果、10月より、buffet方式での提供を開始した。ご利用者からは「温かくて美味しい」など高い評価を得ている。

サービス内容の発信については、令和6年7月を目標に、XやInstagramを通じて実施する予定である。

⑥ ケアサポートセンター

「地域に貢献する」を目標に、その具体策を、「健康寿命を伸ばす方法を知ってもらう」、「地域の相談機関としてのケアサポートセンター筑波園を知ってもらう」及び「稼働率を安定させる」として取組んできた。

健康寿命については、筑波地域包括支援センターが開催した「健康教室」に参加し、認知症予防講義、健康体操ストレッチ講義を担当した。「健康教室」に参加したことにより、介護予防に関心のある地域住民の方々と交流を持つことが出来た。

ケアサポートセンター筑波園の認知度向上については、ご利用者の居住区の民生委員の方とやり取りにより、連絡方法等を知ることができ、今後に繋げることができた。

年度当初 55 人だった利用人数について、相談等を積極的に受けることにより年度平均で 66 人まで回復させることができたが、前年度の平均に追いつくことはできなかった。

5 行事実績

	行 事	
R5/4 月	花見	開花の時期に、フロア毎で園庭散策など 4/30～31 デイ
5 月	端午の節句 B C P 訓練	5/5 フロア毎に実施、5/5 デイ 5/30 実施
6 月	遠足 カフェ・リラクゼーション (デイ) 総合避難訓練	6～7 月にかけて、全利用者対象の近隣ドライ ブに変更し実施 6/21～22 実施 6/27 実施
7 月	七夕	7/7 フロア毎に実施、7/7 デイ
8 月	お盆 夏祭り	8/13～16 仏間にて実施 8/29 本館 1 階、8/22 本館 2 階 8/21～22 デイ
9 月	敬老週間 敬老式典 十五夜 彼岸供養	9/12～18 フロア毎に実施、デイ 9/14、15 フロアごとに対象の方のお祝い 実施 9/29 フロア毎に実施 9/22 地下にて実施 (全館放送)
10 月	十三夜 花火大会 運動会 (デイ)	10/27 フロア毎に実施 10/27 駐車場にて実施 (本館) 10/24～25 実施
10～11 月	ドライブ	フロア毎にドライブ実施
11 月	ドライブ (デイ) 慰霊祭 総合避難訓練	11/8～9 8/24 本館 2 階にて実施 (全館放送) 11/28 実施
12 月	クリスマス会・忘年会	12/22 本館、12/20、21 別館実施 12/25 デイ
R6/1 月	迎春 新年会 初詣 どんと焼き・ならせ餅	1/1 昼食会食 1/4 フロア毎に開催、1/4 デイ フロアごとに初詣ドライブ 1/31 別館 2 階、 1/17 別館 3 階 1/14 ならせ餅はフロア毎に実施 (どんと 焼き強風のため、職員にて実施)
2 月	節分	2/3 フロア毎に実施、2/2 デイ
3 月	桃の節句	3/3 フロア毎に実施、3/1 デイ

6 職員研修実績

月	全体研修		実施状況	資質向上		実施状況
				介護（入所・短期・通所）/看護/相談/ケアサポ/栄養/理		
		内容		対象	内容	
4	○	①身体的拘束適正化 ②虐待防止 ③事故発生防止 ④事故等緊急時の対応	①～④ 資料配布			
5						
6				介護	利用者の尊厳	集合研修
7				栄養・調理・介護	食中毒防止について	資料配布
8						
9						
10	○	①倫理 ②人権尊重 ③法令遵守 ④利用者のプライバシー ⑤身体的拘束適正化 ⑥虐待防止 ⑦事故発生防止 ⑧事故等緊急時の対応	①～④ 資料配布及びレポート提出 ⑤～⑧ 資料配布	各課・事業所単位	感染症の予防及びまん延防止に関する研修	資料配布
11				看護	感染症対策における看護職の役割	集合研修
12						
1				介護・看護他	看取り介護について	資料配布
2				介護・看護	医療的ケア	資料配布
3				介護・看護他	褥瘡対策について	資料配布

7 主要データ

1 入所者の平均介護度・平均年齢

本館

令和5年3月31日現在の平均介護度	4.18
令和6年3月31日現在の平均介護度	4.13

令和5年3月31日現在の平均年齢	84.1
令和6年3月31日現在の平均年齢	85.8

別館

令和5年3月31日現在の平均介護度	4.16
令和6年3月31日現在の平均介護度	3.90

令和5年3月31日現在の平均年齢	86.5
令和6年3月31日現在の平均年齢	86.3

2 ショートステイ介護度別利用実績

ショートステイ(従来型6床)利用実績 R5.4.1～R6.3.31

要支援1		要支援2		介護1		介護2		介護3		介護4		介護5		人数計	延べ日数計
人数	延べ日数	人数	延べ日数	人数	延べ日数	人数	延べ日数	人数	延べ日数	人数	延べ日数	人数	延べ日数		
0	0	0	0	0	0	1	4	8	855	11	1,232	1	150	21	2,241

ショートステイ(ユニット型16床)利用実績 R5.4.1～R6.3.31

要支援1		要支援2		介護1		介護2		介護3		介護4		介護5		人数計	延べ日数計
人数	延べ日数	人数	延べ日数	人数	延べ日数	人数	延べ日数	人数	延べ日数	人数	延べ日数	人数	延べ日数		
0	0	1	3	11	227	11	107	43	3,088	11	1,138	7	554	84	5,117

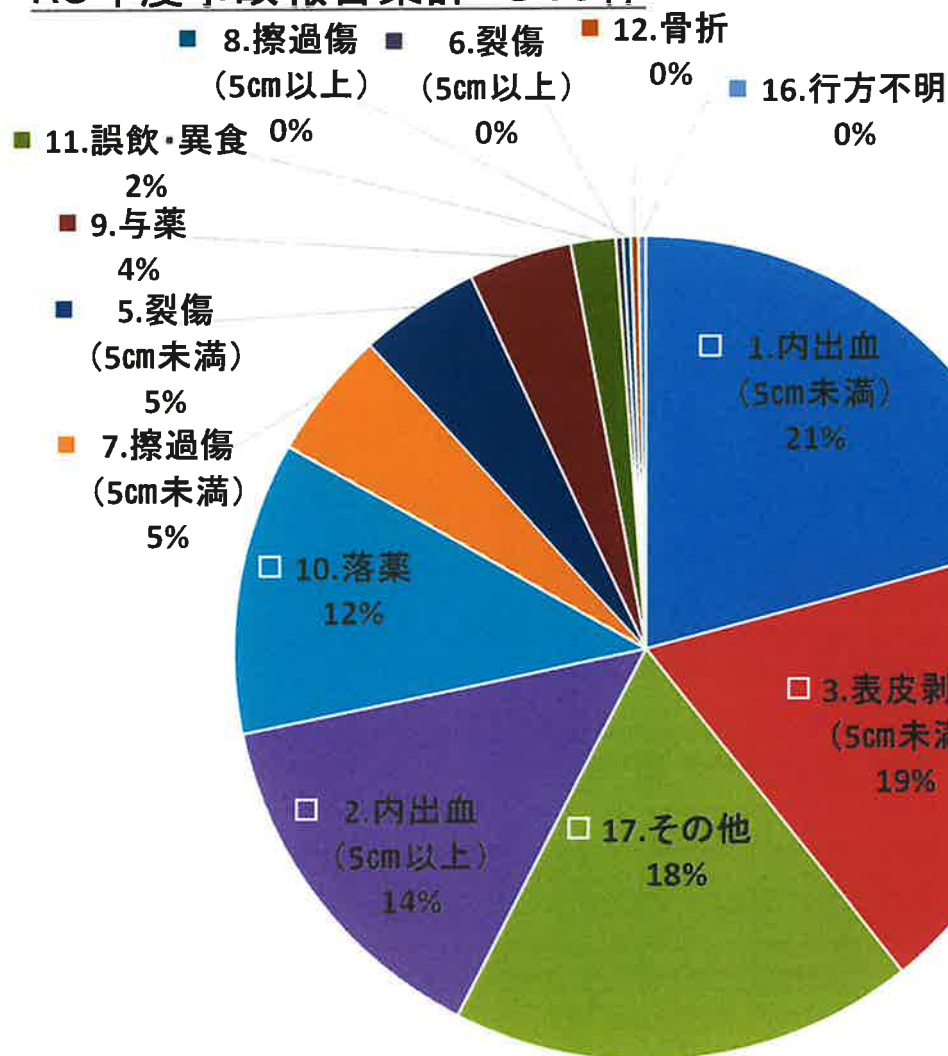
3 デイサービスセンター登録者数年齢別内訳表

	～64	～69	～74	～79	～84	～89	～94	～99	100～	計
H29.3.31	0	1	3	6	23	19	18	2	0	72
H30.3.31	0	0	5	5	11	17	17	3	0	58
H31.3.31	0	0	3	8	8	21	16	2	1	59
R2.3.31	0	1	4	9	9	19	13	5	1	61
R3.3.31	0	0	4	6	10	15	9	5	1	50
R4.3.31	0	1	2	2	11	20	4	6	0	46
R5.3.31	0	1	2	5	12	16	10	2	0	48
R6.3.31	1	1	3	2	11	10	9	1	0	38

4 ケアサポートセンター月別担当件数実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
初回加算		1	3	2	1	4	2	3	4	5	2	2
件数	45	48	48	49	48	49	49	48	53	56	51	53
支援	21	18	22	20	22	24	25	25	24	25	26	28

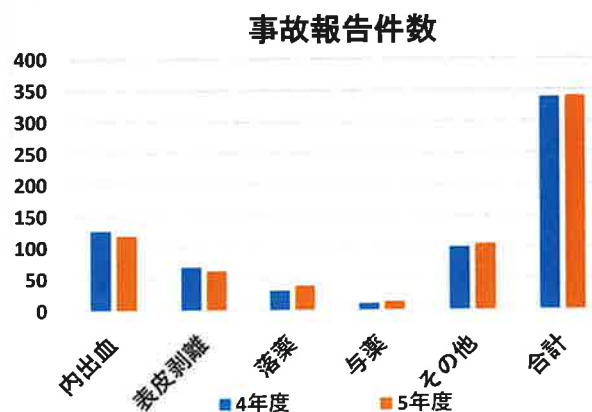
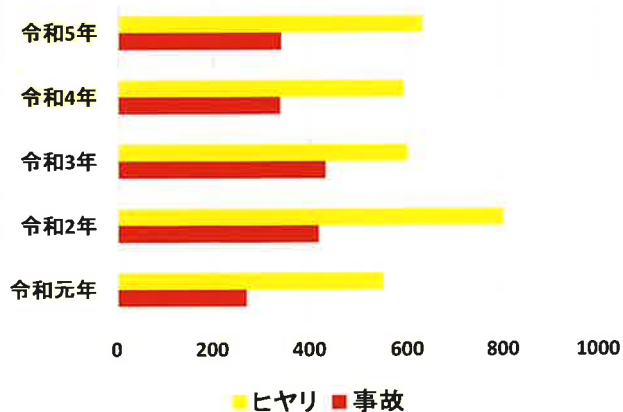
R5年度事故報告集計 340件



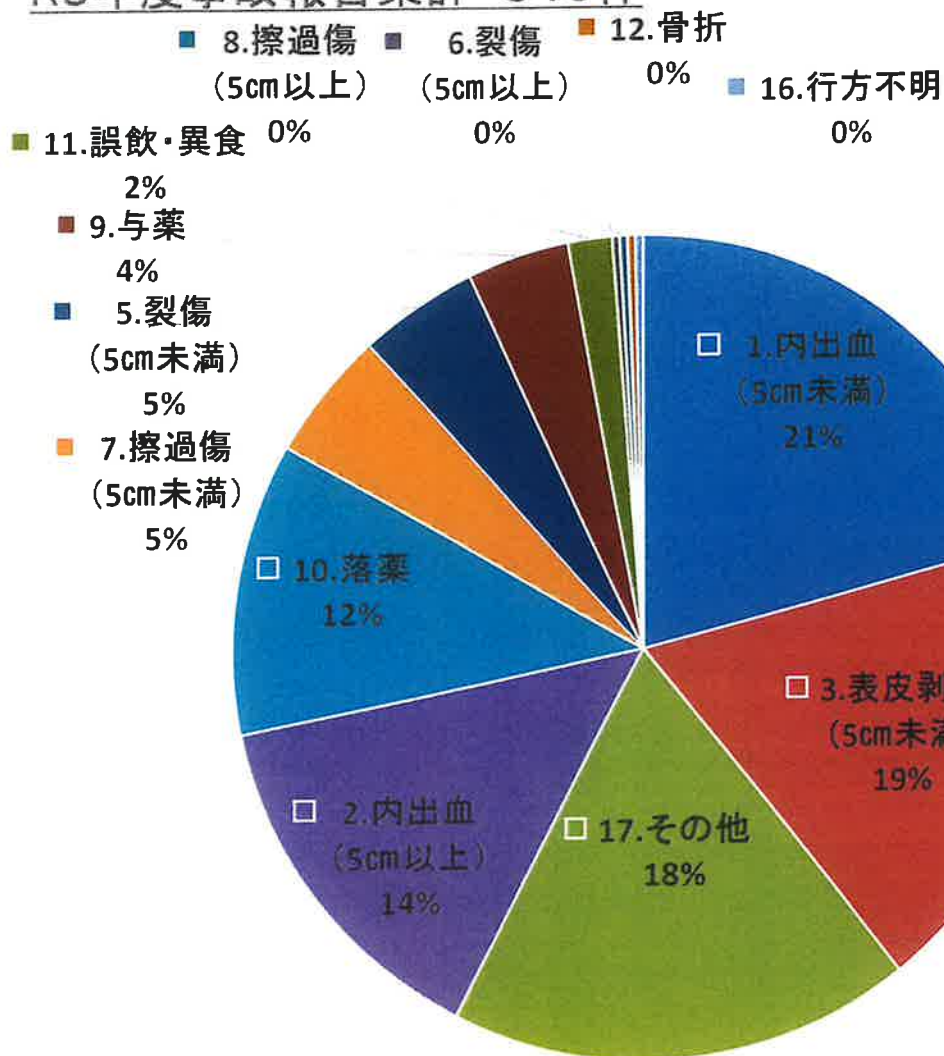
	事故	ヒヤリ
令和元年	269件	550件
令和2年	417件	798件
令和3年	431件	599件
令和4年	338件	591件
令和5年	340件	630件

令和4年度、5年度比較			
令和4年度		令和5年度	
事故件数	338	事故件数	340
内出血	127	内出血	119
表皮剥離	69	表皮剥離	63
与薬	11	与薬	14
落葉	31	落葉	39
その他	100	その他	105

報告事故: 4年度 12件、5年度 6件



R5年度事故報告集計 340件



	事故	ヒヤリ
令和元年	269件	550件
令和2年	417件	798件
令和3年	431件	599件
令和4年	338件	591件
令和5年	340件	630件

令和4年度、5年度比較			
令和4年度		令和5年度	
事故件数	338	事故件数	340
内出血	127	内出血	119
表皮剥離	69	表皮剥離	63
与薬	11	与薬	14
落葉	31	落葉	39
その他	100	その他	105

報告事故: 4年度 12件、5年度 6件

